各地区で子どもたちが収穫体験

営農課では、食農教育の一環として管内の子どもたちへ農作業体験の支援をしています。

尾上地区のわんぱく農園では、10月23日は平川市の日の出こども園、29日は平川市立金田小学校がさつまいもの収穫体験を行いました。子どもたちは、職員や女性部員の手ほどきを受けながら、一生懸命収穫しました。

さつまいもを収穫する園児

航空会社社員が収穫作業を応援

10月28日から30日、日本航空株式会社（ＪＡＬ）の社員４人は、「農作業応援活動」のため平賀地区を訪れ、りんごの収穫作業を行いました。

社員はりんごを傷つけないよう慎重に行い、高い場所にあるりんごはハシゴを使って収穫しました。

生産者は「収穫は人手が必要な作業なのでとても助かる。今後も継続してくれるとありがたい」と話しました。

りんごを収穫する日本航空社員

常盤地区良食味米競技会

ときわ良質米生産部会（横山英樹部会長）は10月23日、常盤支店で良食味米競技会を開き、令和７年産米の審査を行いました。部会員15人が出席し、「青天の霹靂」「まっしぐら」「はれわたり」などの玄米サンプル25点（１点300㌘）を審査しました。

審査結果は、来年１月に開く同部会通常総会で発表され、上位４位が表彰される予定です。

目視で品位鑑定を行う部会員

常勤理事が各地区の園地を訪問

奈良寧組合長をはじめとした常勤理事５人は、10月中旬にりんごの生育確認とＪＡへの入庫をお願いするための園地訪問を実施しました。

奈良組合長は「病害虫による大きな被害もなく、順調に生育したようで安心した。今後も、生産者に少しでも多くＪＡへの入庫をお願いし、市場からの要望に応えられるよう努めたい」と述べました。

園地を訪問した奈良組合長